

「ならぬことはならぬものです」

校長 三瓶 昌信

11月22日(土)の道徳授業地区公開講座には、多くの皆様にご参観いただき、誠にありがとうございました。今年度は「正直・誠実」「節度・節制」をテーマとして授業を行いました。授業内容や子供たちの様子等について、アンケートにてご意見をお寄せください。

講演会の講師には、大原龍一先生(明星大学 元教授・町田四小 元校長)をお招きしました。

大原先生には、「道徳と道徳教育」「道徳の先生」「思いやり」…たくさんのことを教えていただきました。特に、最後の「読み聞かせ」は心にしました。会場のあちらこちらからすすり泣く声が…私も席を立たずにはいられませんでした。

そんな先生のお話の中で、会津藩の「什の掟(じゅうのおきて)」が紹介されました。会津出身の私は、何度も何度も耳にした内容です。

藩校である「日新館」に入学する前(6~9歳)の子供たちは「什」という集まりを作り、自分たちで決まりを考え、会津武士になるための心構えを身に付けていたそうです。内容はどの集まりも同じようなものだったそうですが、必ず最後に「ならぬことはならぬものです」という言葉が入ります

什の掟 (現代語訳)

- 1 年長者の言うことに背いてはなりません
 - 2 年長者にはお辞儀をしなければなりません
 - 3 うそを言ってはいけません
 - 4 卑怯な振る舞いをしてはいけません
 - 5 弱い者をいじめてはいけません
 - 6 外でものを食べてはいけません
 - 7 外で女性と話してはいけません
- ならぬことはならぬものです

今の時代には合わないものもありますが、これを自分たちのルールとして定めた当時の子供たち、皆さんはどうお考えになりますか？

今の時代でも大切にしたい内容もありますね。

そして最後に必ずあるのが「ならぬことはならぬものです」というわけです。決め台詞ですね。

「ダメなものはダメ！」…今でも大切ですね。

ぜひ、ご家庭でも話題になさってください。現代では大人が示す必要があるのでは、と考えます。

利己主義、自己中心的な考えが出がちな現在(直接当てはまらないかもしれませんが、学校行事のたびに近隣から駐車場の不正使用の連絡があります)、学校、家庭、地域が連携を強め、「小山の子供たちは小山のみんなで育てる」という意識、実践を高めていきましょう。

現在、学校は様々な形で「改革」を進めています。その中心が「学び続ける力」の育成です。授業も一斉一律授業から、個別最適な学びと協働的な学びへ改革を進めています。教師が教えるだけの授業ではなく、教師が支援する、導く役割をし、子供が自ら「考える」授業です。学校教育では「自ら考え、判断し、行動する子」を目指しています。まさに「什」の子供たちのように…。

利己的に、子供のわがままを許すということでは決してありません。「うちの子は…」「うちの子だけ…」になっていませんか？「考える子」を共に育てていきましょう。